

2021 年度 事業計画

本学園は2017年2月に中期方針を表明し、建学の精神に基づくビジョンを掲げた。そして、組織、事業、教育、業務の到達目標値を重要な経営指標（KPI）として示し、5年間の行動計画を策定した。2021年度は中期方針と行動計画の結果を検証し、次の計画を策定する年である。一方でポストコロナ時代を見据え、これまで培った本学園の教育の在り方を検証し、修正を加える必要に迫られている。

少子高齢化が進み、教育機関は激しい環境に置かれている。その中であっても本学園は地道な努力を続け、環境整備に取り組んできた。1988年に昭和ボストンを開校、2006年にブリティッシュ・スクール・イン・トウキョウ昭和（BST）を誘致、そして2019年にはテンプル大学ジャパンキャンパス（TUJ）を迎え、グローバル人材育成の環境は整った。

各部門の取り組みも成果を出している。大学では国際学部につき、グローバルビジネス学部ビジネスデザイン学科がTUJとのダブルディグリープログラムを開始する。また、一般教養にデータサイエンス科目群を配置し、各学科の専門学修にデータ解析が加わることとなった。学生の実就職率は全女子大学中10年連続第1位を記録した。

中学高等学校は本科、グローバル留学、スーパーサイエンスの3コース制で運営。文部科学省教育改革推進事業に採択された取組は、新しい学びのフィールドを形成しようとしている。

小学校の英語プログラムは従来から日本の先進事例として知られており、BSTやTUJとの交流により、英語を身近に感じることができる。

働く親を支援するこども園の教育・保育環境、小学校でのアフタースクールも地域から高い評価を得ている。

2021年度の実業計画は、学園の事業を支える財政基盤を充実させ、各部門におけるステークホルダーに寄り添った教育、研究環境の整備を目標とする。各部門でオンラインを活用したプログラムを開発できるよう、学園のインターネット環境を充実させる。

それにより、国際的に高い評価を得る学園を目指し、着実に前進することを目標とする。

2021 年 3 月 18 日

I. 学園全体

A. 組織体制

1. グローバル

キャンパスを共有するテンプル大学ジャパンキャンパス（以下、TUJ）およびブリティッシュ・スクール・イン・トウキョウ昭和（以下、BST）と各部門の連携を深め、相乗作用による教育効果の向上とブランドイメージの定着のために必要な人材を配置する。

2. 附属校教員組織

大学生の教職離れや今後の定年退職者の推移を踏まえ、昭和教育を発展させる優秀な人材採用と定着の方策を検討する。

中学高等学校は、教育指導強化のために必要な指導的立場の人員を配置する。

小学校は、新校長就任を機に役職者の職務を再編成して組織体制を整備する。

3. 職員組織

職員の年齢構成や今後の定年退職者の推移を踏まえ、円滑に世代交代が図れるよう、採用、登用、育成などの人事を計画的に進める。

所属内や関連部署との対話・連携を促進し、円滑な職場関係の構築と人材育成に務め、業務改善の推進を図る。

B. 人事計画

1. 働き方改革

関連法令の改正に伴い、就業規則等の整備・見直しを図る。

職務内容に応じた処遇の見直しを検討する。

2. 人事評価制度

貢献度を公正に評価して人事制度に反映できる制度を検討する。

3. 人件費の管理

中期方針の実現に向けた人員配置をすすめ、人件費比率 55.0%以下を維持する。

C. 学園のグローバル化

TUJ や BST などと交流する機会を設け、学園全体のグローバルキャンパス化を推進する。

1. 多様な文化との交流によるグローバル化

様々な国や文化、年齢の人々が集うダイバーシティな環境の中で、児童・生徒・学生・教職員・保護者が多様性を理解し、お互いに学び、協働するイベントを開催する。

2. 語学力の向上

こども園、小学校、中学高等学校、大学、大学院など、学園の各部門で語学力を高める教育を実践する。

3. 全学生・生徒・児童との交流

一体化したグローバルな環境を活用できるよう、クラブやプロジェクト活動といった児童、生徒、学生が行う課外活動を推進する。

D. 昭和ボストン

学生の学力と学習意欲の向上に対応し、カリキュラムや授業内容に工夫を加える。

1. 上位学生の能力向上

大学では海外協定大学への留学など、昭和ボストン修了後の留学制度（ポスト・ボストン・プログラム）が充実してきた。

より多くの学生がこれらを選択できるよう、昭和ボストンで行う学力上位層や意欲の高い学生向けの特別プログラム（American College Readiness Track）を一層強化し、語学力と高度な専門性の両面での教育を推進する。

2. 学生の能力開発

カリキュラムの改善を図るとともに、オンラインも含め、全学生が高いモチベーションを維持できる学習環境を備える。

3. 協定大学の開拓

英語で留学可能な協定大学を開拓し、昭和ボストン修了後のプログラムを充実させる。

4. 附属校各プログラムの充実

小中学生対象のボストン研修では、年齢に応じたプログラムを開発する。

E. キャンパス整備

1. 施設設備の建築・改修計画（主要 9 件）

2021 年度に計画する主な建設・改修は以下の通り。

- ① オンライン授業・教職員会議用のネットワーク増強（2021 年～2023 年予定）
- ② 人見記念講堂改修（2021 年 7 月～2022 年 2 月完了予定）
- ③ グリーンホール改修（第 3 期 7 月～9 月完了予定）
- ④ 中高部 2 号館エントランス改修（第 3 期：7 月末～8 月完了予定）
- ⑤ 1 号館地下調理実習室改修（第 2 期 7 月～9 月完了予定）
- ⑥ 普通教室アクティブラーニング対応 机・椅子更新（9 月完了予定）
- ⑦ 学園本部館エレベーター改修（7 月～9 月完了予定）
- ⑧ 8 号館空調機更新（第 1 期 8 月～9 月完了予定）
- ⑨ 西門～こども広場整備（7 月～9 月・2 月～3 月完了予定）

F. 経営基盤強化

外部資金など学納金以外の収入を獲得する具体策を検討する。

1. 外部資金の獲得

科学研究費や委託研究費、プロジェクト研究助成金など競争的資金に積極的に応募し、事業収入の多様化に努める。

2. 収入の多角化

校舎の賃貸事業など、現有施設を活用して安定した収入源を獲得する。

人見記念講堂改修工事後の有効活用法や、講座、イベントなどの収益事業を検討する。

3. 経費の管理

事務の簡素化・合理化を検討し、コストを意識した効率的な経費支出を実現する。

4. 財務データの活用

学園内外の経営環境を常に把握し的確な判断、及び部門間の情報共有が出来るよう、財務データを活用して積極的に報告し、提言する。

5. 寄付制度

- ① 次の 100 年に向けて寄付のホームページを改修する。
- ② 光葉同窓会報に新たに寄付の依頼文を同封して卒業生に協力を呼びかける。
- ③ 人見記念講堂に寄付金額別の称号を設けた銘板を設置する。
- ④ 遺贈・相続などのセミナーを検討する。

G. 保護者・卒業生・退職教職員との連携

昭和女子大学サポーターズ・クラブを充実させ、お互いに支援できる体制を構築する。

現在の会員に加え、卒業生・退職教職員にも定期的に情報を提供し、関係者の帰属意識の向上を目指す。

II. 大学・大学院

A. 将来構想

各学科・専攻が持つ強みや将来構想を意識し、カリキュラムの方向性を明確にしなが
ら年齢構成にも配慮したうえで、教員人事を計画する。

学部・学科の設置計画の進捗状況を確認し、大学将来構想検討委員会の主導で社会ニ
ーズに対応した教育プログラムを開発する。

2021 年度以降の主な取り組みは以下の通り。

1. 社会人対象の大学院 1 年制コースの開設

大学院生活機構研究科の生活文化研究専攻と福祉社会研究専攻に 1 年制コース
を開設する。

福祉社会研究専攻には 2 コースを開設。福祉共創マネジメントコースでは保育・
福祉施設、医療機関のマネジメントを担う専門的な経営人材を育成する。消費者志
向経営コースでは新しい価値創造に取り組み、会社や組織の企画、立案、ビジネス
モデルの開発などを担う人材を育成する。

B. 教育の質的転換

1. 学修時間の増加

大学生の学修時間増加を目的に、教育目標と各科目の関係性を示したカリキュ
ラム・マップや、全科目の関係性を体系的に示したカリキュラム・ツリーを活用し
て主体的な履修を促す。

教育課程の全体像が理解できるよう、科目間連携や難易度表すナンバリングを
整理、計画的に学習できる環境を整備する。

2. シラバス（教員が学生に示す講義・授業の計画書）の実質化

ディプロマ・ポリシー（学位授与に関する基本的な考え方）と、開設科目の関係
がわかるか検証して記載内容を見直す。

3. 教育方法

コロナ禍、ポストコロナの時代における効果的な教育法を構築する。対面とオン
ラインを組み合わせたハイブリッド授業を実現し、成果を検証して教育改善につ
なげる。

4. 総合教育センター

担当副学長、学長補佐、総合教育センター長を中心に総合教育センター、一般教
養科目、外国語科目の将来計画を検討する。データサイエンス科目群を新たに開講
する。

5. FD 活動

3 ポリシーをふまえた全学的な取り組みとして、授業改善アンケート、FD 研究会などを実施。各学科・センターでは専門分野の FD 活動を展開し、授業内容・方法を改善・向上させる組織的な活動を推進する。

授業改善アンケートは、デジタル化への移行作業に着手する。

C. グローバル化の推進

1. TUJ との連携

グローバル推進委員会に設置する TUJ ステアリングコミティで、TUJ と学園の教職員・学生間交流の情報を共有する。連携事業の情報提供をさらに強化する。

- ① TUJ との協働により効果的な教育プログラムを展開する。
- ② クラブなど課外活動を通して学生間交流・多文化理解の機会を提供する。

2. 留学・グローバル教育

多文化社会で活躍できる人材を育成するために以下の取組みとコロナ禍に即した学修環境の充実を図る。

- ① 海外協定大学や TUJ など、単位履修やダブルディグリープログラムに参加する学生数を増やす。
- ② 国や地域の特性に応じた外国人留学生の獲得方針に基づき、支援体制を整備し、非正規留学生向けプログラムを充実させる。
- ③ 昭和ボストンのサマーセッションや、15 週間プログラムに参加しやすい環境を整え、ボストン校のさらなる利用拡大を図る。
- ④ 海外協定大学との関係を深め、学生・教職員交流プログラムを拡充する。
- ⑤ 留学前や帰国後の研修など、留学準備からキャリアプラン形成までを見据えた一貫プログラムを開発する。
- ⑥ COIL (Collaborative Online International Learning: オンラインで海外大学と交流する教育手法) などのオンラインプログラムや国際共修型のプログラムを開発し、国内に留まる学生にもグローバルな学習機会を提供する。

3. 昭和ボストン

学生の学力と学習意欲向上に対応し、カリキュラムや授業に工夫を加える。

- ① より多くの学生が協定大学や TUJ プログラムに挑戦できるよう、学力上位層、意欲の高い学生向けの特別プログラム (American College Readiness Track) を強化し、語学力と高度な専門性に向けた教育を推進する。
- ② オンラインプログラムも含め、全学生が高いモチベーションを維持できる学習環境を整備する。

4. 語学力向上

- ① 英語 [英語系学科]
上位・中位の目標を定め達成計画を立案して検証する。

特待生プログラムなどを用意し、高度な語学力を持った学生を育成する。

② 英語 [非英語系学科]

特待生プログラムなどを用意し、高度な語学力を持った学生を育成する。

③ 英語以外の言語

中上位および全体の目標を定め達成計画を立案して検証する。

D. 学習支援・キャリア教育

人生を生きぬく力を「夢を実現する 7 つの力」に示し、グローバル社会で自立し、社会で役割を担える人材の育成を目標としてそれぞれの力を育成する。

1. 体系的キャリア教育

各学科のキャリアデザインポリシーに基づき、1 年次から体系的なキャリア教育を実践する。

社会人メンターからのサポート、現代ビジネス研究所でのプロジェクト、コミュニティサービスラーニングセンターを窓口としたボランティア活動など、正課内外の学習機会を充実させる。

2. オナーズプログラム（モチベーションの高い優秀な学生を支援するクラス）

学生のロールモデルとなる人材を育成するオナーズプログラム「リーダーズアカデミー」において Co-Creation（共創） Challenge を実施する。

国連が掲げる S D G s（持続可能な開発目標）など、地球規模の課題解決を学生が考え、社会に触れ、社会に迫り、社会を変える内容とする。

3. キャリア支援

就職活動・キャリア支援の個別相談体制を充実させ、学生の多様なニーズに対応する。学生のインターンシップ先をさらに開拓し、質の高い情報を提供して就業体験の場を広げる。

引き続き就職活動を積極的に支援し、希望学生に対する就職率 100%と進路の質向上を目指す。

E. 研究活動の充実

1. 競争的資金採択率の向上

科学研究費などの競争的資金の採択率向上に資する取り組みを推進する。

2. 研究における負担の軽減

研究費執行ルールの見直しや支援により、教員の事務的な負担軽減に努める。

3. 研究成果の情報発信

各研究所および教員の研究活動の積極的な情報発信に努める。

4. 研究倫理教育の推進

研究倫理が向上する教育や研修を教員や大学院生、大学生向けに実施する。

5. 研究の推進

学術研究委員会主催の成果報告会を開催し、研究の成果を学内に広く公開する。

F. 外部との連携

1. 社会連携・社会貢献

企業や地域と協働する学生のプロジェクト活動を積極的に推進する。

自治体や企業等との包括協定・連携協定に基づく事業等を推進し、地域への貢献や課題解決に取り組む。

2. 共同研究・受託研究

企業や官公庁などのニーズに対応し、共同研究や受託研究を進める。

3. 世田谷プラットフォームの推進

本学を含む世田谷区にキャンパスを置く6大学と世田谷区、区内産業界で形成する「世田谷プラットフォーム」の中長期計画を推進する。ステークホルダーに対し、高等教育・実務教育の提供や、地域の課題解決のための研究協力、学生ボランティア活動などの様々な機会を提供する。

4. 現代ビジネス研究所

企業や地域と協働する学生のプロジェクト活動を開発・推進する。

外部研究員を対象とする研究支援策、交流推進策などのサービスを拡充し、その成果を大学の教育・研究に還元する。

G. 学生募集

1. 本学の入学難易度、志願者・入学者データを分析して入学希望者の質的向上に取り組む。

2. 学部・学科のストロングポイントを明確にし、効果的な広報を展開する。各種メディアを活用し、積極的な情報発信を行う。

3. 高等学校や進学塾、大学入試関連企業との連携を深め、情報提供や意見交換を行い、本学の入試戦略に活用する。

4. 新型コロナウイルス感染予防対策を徹底しながらオープンキャンパスを実施する。

5. インターネットを活用した募集活動を強化する。

III. 附属昭和中学校・高等学校

A. 主体的学習者育成のための教育改革

1. 「昭和の次の 100 年」の基礎となる 2030 年まで 10 年間の将来計画を立案する。
2. 文部科学省「Society5.0 に向けた人材育成」を踏まえ、主体性と自立性を育成し、生涯学び続ける意欲を身につけさせる。特に、以下の項目に関する改革を進める。
 - ① カリキュラムの再編成
 - ② 学校行事の精選
 - ③ 授業改革
 - ④ 生徒の自主活動の活性化

B. 教育研究開発

以下の教育研究に取り組む。

- ① 新教科「総合的な探究の時間」
- ② 教科横断型カリキュラム
- ③ 情報通信技術や人工知能を活用した生徒の学力や興味に応じた個別対応

C. 生徒の ICT 活用力の育成と教員の指導力の強化

1. 新 1 年生から個人用パソコンを Chromebook に切り替える。学校教育用ソフト Google for Education を活用し、生徒が日常的な学習に使用するようにする。
2. Google Classroom の学習管理システム(Learning Management System)を使用し、情報共有や教材提供などの作業も行う。
3. 教職員全てが Google 認定教育者 Level の 1 取得を目指し、学校教育用ソフトを積極的に使いこなす環境を整備する。
4. 情報通信技術支援員の時限的配置や NTT ラーニングシステムズの支援を受けて、今後 3 年間でコンピュータを十分に使いこなした授業の展開をめざす。生徒向けにはコンサルタントや技術的サポートを提供する。

D. 学習活動の重点化

1. 知識・理解力の向上という見える学力、思考力・判断力・表現力の向上という見えにくい学力、意欲の喚起という見えない学力の向上を意識して、学習活動の重点化を図る。

E. 授業力の向上

1. 遠隔授業や授業手法の多様化に取り組み、効果を検証する。

2. 授業研修顧問や授業研究者（数学・英語）の指導による授業研究と研修を推進する。
3. 保護者や全国教育関係者に公開授業を実施し、授業の評価や学校評価を得る。
4. 生徒からの授業アンケートを実施して分析し、意見を活用する。

F. 教育のグローバル化

1. 企画委員会の設置

文部科学省グローバル事業、ユネスコスクールなどの活動や情報通信技術を推進する委員会を設置し、中高部の全活動を統括・管理する。

2. 英語力の向上

- ① 英語の指導法を標準化してカリキュラムを編成。ゴールを設定する。
- ② 人工知能を活用した受検指導を行い、中学 3 年次に全員が英検 2 級受験を目指す。高校 3 年次には全員英検 2 級を取得し、さらに準 1 級以上の取得者を増やす。
- ③ グローバル留学コースのカリキュラムを再編成し、到達目標を設定する。
- ④ 外国人教諭の教育力を有効に活用できる指導体制を確立する。
- ⑤ イングリッシュルームを整備して使用率を高める。

G. 科学教育の推進

1. スーパーサイエンスコースの充実

- ① STEAM（Science, Technology, Engineering, Art and Math）それぞれの要素を具体化するカリキュラムの開発とカリキュラムマネジメントを構築する。
- ② 併設大学や他大学、他機関と連携して科学的素養を育成する。医学系大学教員と連携した学習プログラムを開発する。

2. プログラミング教育

小学校のプログラミング教育と接続する教育プログラムを開発して実施する。

H. 校内のグローバル化と海外ネットワークの強化

1. BST との関係を深め、連携・協力する授業の開発を検討する。
2. TUJ との関係を深め、TUJ の初級レベルの授業を提供する AP（Advanced Placement）や実際に TUJ で学ぶ DE（Dual enrollment）といったプログラムを構築する。TUJ への進学に関する進路指導も行う。
3. 国内外のユネスコスクールとの連携に取り組む。
4. 新規に海外提携校・協力校を開発し、海外研修プログラムを高度化させる。

I. キャリア教育・進学指導の推進

1. 多様な進路選択を可能に

- ① 学力向上を目指し、各学年に進路指導担当を配置する。
- ② 進学塾と連携し、難関大学への進学を支援する。
- ③ 本学園独自の五修生制度（中高6年目を科目等履修生として大学で学ぶ制度）のメリットを生徒や保護者に周知し、内部進学希望者の学力の向上を図る。
- ④ 外部機関と連携して個別最適化した進学指導カリキュラムを整備する。
- ⑤ 進学塾と連携して教員の進路指導力を高める。医療・看護系進学指導体制を整備する。
- ⑥ 小論文・志望理由書作成指導の強化。保護者向けの進路勉強会を実施し、情報提供の仕組みを作る。
- ⑦ 模擬試験や学力推移調査データを分析。学力推移を確認し指導に活用する。
- ⑧ 学年や教科でデータを活用した学習指導計画を策定して実施する。数値目標を設定し、達成の具体策を実施する。

J. 保護者との連携

1. 保護者による学校評価、授業参観での授業評価アンケートを引き続き実施する。
2. 個人面談、保護者会、保護者の教育目標に対する理解を促す機会を増やし、生徒の成長を学校と家庭が連携して促進できる環境を整備する。
3. SNSを活用して日常的に学校生活の情報を発信する。

K. 戦略的な広報展開

1. 中学校受験マーケット分析に基づき広報戦略を立案する。進学塾や産業界との連携を強化し、本校管理職と定期的な面談機会を設ける。
2. 附属小学校と連携した英語やプログラミングのカリキュラムを運営する。
3. 広報部が企画して全教職員体制で生徒募集を行う。
4. 競合校をベンチマーキングに分析を行う。
5. 帰国生マーケットに対応する広報戦略を立案する。
6. ホームページをリニューアルする。SNSや各種メディアによる情報発信を強化し、媒体への露出も増やす。

L. 受験予備軍にも訴求

1. 小学生向け
オンラインや対面により、学校説明会、入試問題説明会、実験教室、自然観察会、算数教室、プログラミング教室、ネイティブ英語教室、クッキングなどのイベントを開催する。
2. 保護者向け
思春期子育て情報や学校情報を進学塾経由で発信する。

M. 安心安全の学校づくり

1. 生徒や保護者、指導教員からの相談に対応し、カウンセリング体制を充実させる。
2. 学習相談機能を充実させる。
3. 新型コロナウイルス感染防止対策を徹底する。

IV. 附属昭和小学校

A. 学力向上・指導力向上

1. 効率的・円滑に専門性の高い業務を遂行するために校務分掌の一部改編を行い、入試・企画部を解消して入試部を発足させる。
2. 文部科学省の GIGA 構想を踏まえ児童個人用のタブレットを携帯させる。
3. タブレットの活用を研究。場所や時間を問わず、一人ひとりに合った学びを提供し、学力向上に繋げる方策を検討する。
4. ICT 特別推進チーム(仮称)を立ち上げて、教職員がタブレットを多目的に活用するための支援や情報提供を担当する。授業だけでなくデータ共有やリモート会議などでも活用してスキルをさらに高めていく。
5. デジタル教科書の無償化に備え、実践研究を行う。
6. コンピュータ教務システムの運用を本格化し、教務事務の効率化や業務を軽減し、働き方改革を推進する。

B. 児童の個性伸長

1. 児童それぞれの個性を理解して伸ばすことができる指導できるよう、児童実態把握委員会の情報を活用し、カウンセラーや保健室との連携を深めていく。
2. 児童相談室や保健室の改修を検討し、機能性に富んだ環境を整備する。

C. 戦略的な広報・募集活動

1. 他校とどう差別化するか、付加価値をつけるかを検討して学校説明会・相談会を企画・運営し、募集活動に生かしていく。
2. 説明会や出願方法も保護者の利便性を考慮してシステム設計を行って構築する。
3. 本校の特色やストロングポイントを明確にして広報する。
4. 説明会参加者や入学予定者から情報を収集し、分析して募集活動に活用する。
5. 帰国子女受け入れ対策では専門サイトに情報を掲載し、積極的に説明会に誘致する。また、国外で実施する説明会参加も視野に入れて計画する。編入試験は、帰国家族のニーズに合わせて4月と9月に実施する。
6. 昭和こども園対象の内部説明会を早期に開催。児童募集とともに検討する進学先の情報も入手する。

D. グローバル化

1. 発展的英語教育を希望する児童、新入生帰国子女を対象に、有償の特別放課後プログラムの開講を検討する。

2. TUJ や BST との連携を強化し、ボランティア・インターンや相互訪問などの活動を活性化させる。
3. 夏のボストン研修に加え、冬の海外研修を企画し、海外体験の機会を増やす。

E. 昭和教育の再確認

1. 創立 100 周年を経て、学園の建学精神に基づく初等部の教育を振り返り今後の教育の方向性を再確認する。
2. ひとり 1 台タブレットの導入によりより創造的な深い学びが実現できるよう、多角的な授業の見直しと検討を行い、さらなる授業の質向上と授業力強化を図る。
3. 教育効果を考えた各種行事の見直しや、施設設備活用の見直しなどを行う。
4. 附属部門との連携を強化し、同じ教育理念の下で一貫して学び、伸び伸びと成長できる環境を整備する。

V. 附属昭和こども園

A. 教育・保育

1. 幼保連携型認定こども園の教育・保育要領に沿って園児の主体的な活動を確保し、一人ひとりの行動の理解と予測に基づき、環境を計画的に構築する。
2. 0歳児から小学校就学前まで一貫した教育・保育を、園児の発達や学びの連続性を考慮しながら展開する。
3. 体育、音楽、自然、造形、ダンス、ICT など、多様な学習機会を提供する。
4. 教職員で構成する以下の 9 プロジェクトを中心に、それぞれの目標を達成する取り組みを実践する。
 - ① 教育・人材育成プロジェクト＝より良い教育・保育の実現に向けて保育教諭の育成計画を策定する。
 - ② こども環境あそびプロジェクト＝「あそび」から生まれる学びを環境面から追求する。
 - ③ English Project＝グローバル化が進む世界に羽ばたく人材となる基礎を養い、2歳児から小学校就学前まで一貫して英語と関わる教育環境を整備する。
 - ④ 音楽プロジェクト＝乳幼児期にふさわしい音楽体験を提供するとともに、5周年記念イベントを計画し、音楽を通して園の活性化につなげる。
 - ⑤ からだづくりプロジェクト＝子どものころとからだの育成を図る。
 - ⑥ リスクマネジメントプロジェクト＝園の安全を確保する。
 - ⑦ 防災・防犯プロジェクト＝備える力を身につける。
 - ⑧ 食育・健康プロジェクト＝食育活動の充実と健康増進に努める。
 - ⑨ 地域子育て交流・情報プロジェクト＝園の魅力を地域に発信するとともに、地域の子育て家庭に対して体験・交流の機会を提供する。

B. 地域貢献

1. 世田谷区地域子育て支援事業に基づき、地域の家庭に向けた子育て支援活動をさらに充実させる。
2. 保育体験として、在園児と一緒にこども園での生活の実体験や、遊び・園活動・園行事等に参加できる機会を確保する。
3. 出産を迎える親の体験学習として、園見学をはじめ出産前後の親が育児不安の解消をはかる機会の確保のほか、外部の相談員の協力を得て離乳食相談を実施する。

C. 異年齢交流

こども園から大学院までの校舎が同一キャンパスにあるメリットを最大限に活かし、部門や施設の垣根を超えた交流を実現する。

1. 附属小学校との連携

英語・音楽・小学校探検などで年長組と1年生とが交流

小学校探検などで年中組と4年生とが交流

乳児保育探検などで乳児組と6年生とが交流

2. 附属中学高等学校との連携

サービスマーケティングの積極的な受け入れ（年間8回程度）

保育実習の受け入れ（年間100人程度）

3. 大学・大学院との連携

教育・保育実習の受け入れ（年間12人程度）

学生のアンケート調査研究への協力（年間8件程度）

学生の授業の一環での交流

4. BST との連携

保育実習インターンシップの受け入れ

5. TUJ との連携

インターンシップの受け入れ

6. 駒沢パークインターナショナルスクールとの連携

相互で協議のうえ実施